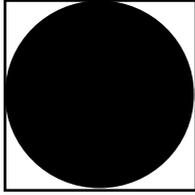


InSEA



公益社団法人
日本美術教育連合
ニュース

No. 142

2014. 9

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-30-14 文京ビル 206号

公益社団法人 日本美術教育連合

発行人 理事長 宮坂 元裕

ニュース担当 北川 智久

E-mail: kitagawa@elementary-s.tsukuba.ac.jp

火打金と火打石

公益社団法人 日本美術教育連合常任理事 大坪 圭 輔

私が本務校の武蔵野美術大学で担当する「工芸教育法」の講義は、「火打金と火打石による着火」の実演から始まります。マッチが一般家庭に普及し始めるのは明治10年代とされていますが、その前までは「火打金と火打石」こそ、日常生活で火をおこす一般的な道具でした。その手順は、まず利き手に火打金を持ち、反対に「火口（ほくち）」を添えた火打石を持ち、火打金を火打石に打ち付けます。「火口」とは古着などの繊維をほぐしたもので、飛び散る火花を受け止めて発火させるためのものです。火打金と火打石による火花が火口に触れくすぶり出したら、経木の先に硫黄がついている「付け木」に火を移します。それを蠟燭などの灯明に移したり、木くずとともに火を大きくして煮炊きに用いたりしていました。ここでは、手先の感覚とその日の風や湿度を見極める感覚、火打石の角を探し火打ち金を打ち付ける運動能力など、さまざまな身体機能が必要です。講義室で生火を熾すことは管理上問題なのですが、講義ではこれで和蠟燭に火を付けています。学生たち数人が挑戦しますがなかなかうまくいきません。上手くいくと拍手が起こります。今、現代に生きる我々は電気やガスを用い、灯りであれ煮炊きであれ、指先ひとつで事足りています。火打金と火打石を日常的に用いていた江戸時代の人々と我々を比較する時、少なくとも火熾しに必要な、もしくは火熾しによって鍛えられる身体機能に大きな差があることは想像に難くありません。

学校からアルコールランプは姿を消しました。マッチも見かけなくなりました。武蔵野美術大学の学生の中にもマッチを扱った経験のない学生が若干名ですが、出現しています。タブレット端末を使った授業の研究会が盛況な中、火打金と火打石から始める「工芸教育法」は、バーチャルな学びに対する疑問からスタートすることになります。

第48回 日本美術教育研究発表会2014 案内

1. 期 日 2014（平成26）年10月19日（日）午前9時30分受付～午後16時30分閉会予定
2. 会 場 東京家政大学 板橋キャンパス 図書館棟
[〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1]
3. 主 催 公益社団法人 日本美術教育連合（InSEA-JAPAN）

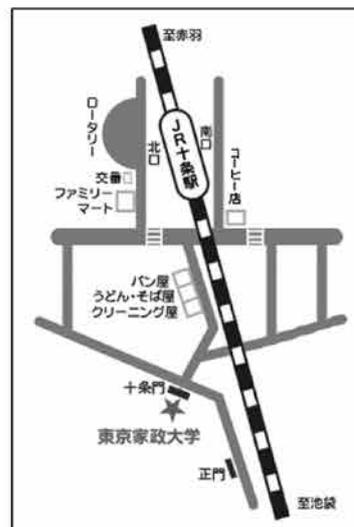
□主催： 公益社団法人 日本美術教育連合 (InSEA-JAPAN)

□後援： 文部科学省

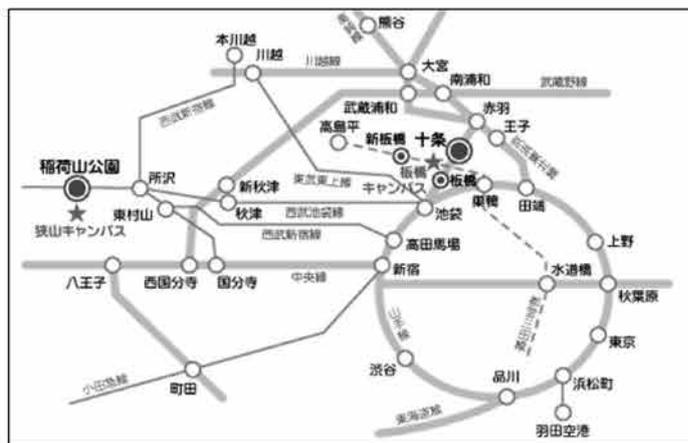
□開催日時： 平成26 (2014) 年
10月19日 (日) 9時30分～16時30分

□会場： 東京家政大学板橋キャンパス図書館棟
〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1
<http://www.tokyo-kasei.ac.jp/about/access/tabid/70/index.php>

□アクセス： JR埼京線十条駅下車徒歩5分
JR埼京線板橋駅下車徒歩17分
都営三田線新板橋駅下車徒歩12分



会場案内図



□参加資格： 会員以外の方でも参加できます。
参加費は500円、事前申込は不要。
お誘い合わせの上、ご参加下さい。

□昼食：当日、近隣には昼食を購入する店はありません。また、学食も利用できませんので昼食は持参してください。

□問合せ先： 研究局長 [事前・事後]
山口喜雄 宇都宮大学
TEL&FAX 028 (649) 5364
nobuoya@cc.utsunomiya-u.ac.jp

開催大学 [当日のみ]

結城孝雄 東京家政大学

携帯電話 090-2387-6094 [緊急時以外はご遠慮願います]

第48回 日本美術教育研究発表会2014

期日 平成26(2014)年10月19日(日)
主催 公益社団法人日本美術教育連合

会場 東京家政大学図書館棟
後援 文部科学省(申請中)

9:30 9:45 9:55 (移動)	受付(当日、会場案内を1階に掲示します)			
	開会式(発表会場 A 103A室/定員200名/3階)		発表会場 A と B は3階、 C と D は4階	
	発表会場 A 103A室 (制度・海外など) 定員200名	発表会場 B 103K室 (美術教育実践など) 定員120名	発表会場 C 104A室 (鑑賞教育など) 定員100名	発表会場 D 104CALL室 (保育・発達など) 定員100名
10:00	フランスの児童・保護者・教師の協働によってつくられた写真本の紹介 元・東京都立学校 藤崎典子	簡単な玩具 構築物の造形活動を通じた創意工夫とコミュニケーションの育成-RIDEF(フレネ教育者国際連盟)でのワークショップから 東京家政大学 結城孝雄	絵画鑑賞の授業構想における教科書分析と教材開発 福島大学大学院生 宮田彰史	造形教育における教授と学習の相互性 国学院大学栃木短期大学/ 宇都宮大学大学院生 名取初穂
10:25 (移動)	A1	B1	C1	D1
10:30	スペインの初等美術教育におけるCLIL教育の研究-マドリッド自治州、ガリシア自治州、カタルーニャ自治州の現状 大分大学 藤井康子	美術教員志望生の専門的成長を促す彫刻作品鑑賞-「大田原市街かど美術館」での実践を通して 元・宇都宮大学非常勤講師 三上 慧	アメリカとフランスの美術館における中学生・高校生向けの美術館・教育普及プログラムに関する調査報告 国立新美術館 井上 絵美子	子どもの美的体験における比喩的イメージの活用と課題III-物語を生む意味の拡張と表現様式の関係に着目して 東京福祉大学 立川 泰史
10:55 (移動)	A2	B2	C2	D2
11:00	[モジュール発表]	[モジュール発表]	[モジュール発表]	雨の日の空を表現する
11:25 (移動)	ギリシャのアテネにおける美術教育2014-第129公立小学校、インターナショナル・スクールISA、国立博物館NAMでの面談調査 福島大学/宇都宮大学/滋賀大学 天形 健/山口喜雄/新関伸也	MITATE Workshopのデザインと評価-InSEA World Congress in Melbourneでの実践を中心に 東京福祉大学/千葉大学/群馬大学 手塚千尋/佐藤真帆/茂木一司	オーストラリアの美術館における鑑賞教育-所蔵作品を活かしたスクールプログラム 東京国立近代美術館/放送大学/ 国立教育政策研究所/国立西洋美術館 一條 彰子/大高 幸/ 岡田 京子/寺島 洋子	子どもの美的体験における比喩的イメージの活用と課題III-物語を生む意味の拡張と表現様式の関係に着目して 東京家政大学 森田 浩章
11:30	A3・4	B3・4	C3・4	D3
11:55	研究発表者(全員)への諸連絡	昼食・休憩(11:55~16:5分) ※当日、近隣には昼食を購入する店はありません。また、学食も利用できませんので昼食は持参してください。		
12:00 12:10				
13:00	美術科教育におけるボケと遠近法の関係 佐賀市立昭栄中学校/ 中村学園大学 姉川明子/姉川正紀	造形教育におけるユーモアの意義と可能性 東洋大学 北澤 俊之	高等学校における外部機関等との連携による学校文化の基盤をつくる教育実践 神奈川県立大和南高等学校 片桐 彩	教育につながる「創造性」概念の解釈の検討-図画工作科を中心に、近年の美術教育雑誌を調査 宇都宮大学大学院生 黛 早織
13:25 (移動)	A5	B5	C5	D5
13:30	戦後の美術科教科書における掲載作品の研究(16)「国際化」と美術教育に関する考察 宇都宮大学 山口喜雄	歴史学習における造形活動の効果-ボックスアートを活かして 東京家政大学4年 鈴木 佳那	五感に導くための鑑賞実践の工夫II 秋田公立美術大学 尾澤 勇	Validity 概念による協同的な表現活動の体験についての考察 福岡教育大学 笠原 広一
13:55 (移動)	A6	B6	C6	D6
14:00	アイヌ文化振興・研究推進機構出版助成図書『父からの伝言』と次世代ものづくり教育カリキュラム構想 北海道教育大学 佐藤 昌彦	レッジョ・エミリアアプローチから導かれる授業の提案-集める・そろえる・並べる 日本の色を意識して 東京家政大学4年 高山 理子	日本における図画工作研究の動機と受講による理解の変化-メキシコ教員研修留学生と中国内モンゴル私費留学生の視点から 宇都宮大学研究生 Maria del Rosario Escobar Garcia/春 林	幼児の『かく』と『あそぶ』一線と面についての一考察 鶴見大学非常勤講師 馬場 千晶
14:25 (移動)	A7	B7	C7	D7
14:30	休 息 (14:25~15分)			
14:40	「みること」を軸にした図画工作科カリキュラムの作成(1)-造形活動における「子どもの姿」の分類からカリキュラムを検討する 東京学芸大学 西村 德行	「〇〇から広がる世界」実践の効果-子ども達の発達段階とイメージを中心に 松山市立石井北小学校 木村 早苗	描画に表れる空間認識力と色彩表現についての研究 埼玉県立越谷西特別支援学校 小野 恵	図画工作にかかわる教育実習の可能性-宇都宮大学教育学部附属小学校における教育実習IIの事前準備と実践報告 宇都宮大学3年 吉澤友希/細田すみれ
15:05 (移動)	A8	B8	C8	D8
15:10	韓国の新しい教育課程による小学校美術教科書 春川教育大学校 柳 芝英	3種の小学校図画工作科教科書の比較と考察-『子どもの美術』を手がかりに 東京学芸大学大学院生 中村 仁美	教員養成系学部における実践研究 玉川大学非常勤講師 直井 崇	異年齢保育における「造形」のあり方についての考察 駒沢女子短期大学非常勤講師 小口 偉
15:35 (移動)	A9	B9	C9	D9
15:40	「理解をもたらすカリキュラム設計」における「解釈」「共感」の観点は美術教育を可能とするか 東京学芸大学 山田 一美	図画工作科から中学校・美術科への『造形遊び』の発展と課題 豊島区立池袋本町小学校/ 西東京市立保谷中学校 竹谷 摩羅子/清水 信博	『教育版画』の形成と教育観についての研究概論-大田耕士にみる版画教育と人間形成 東京家政大学大学院生 中條 秀憲	保育園における「造形教室」実践報告 宇都宮大学大学院生 金子 優人
16:05 (移動)	A10	B10	C10	D10
16:10 16:25	閉会式(発表会場 A)			
16:40	懇親会〔学内11号館学生ラウンジ2階〕 ※当日、受付にてお申し込みください。 (一般3000円、院生・学生2000円:例年30名以上の参加があります)			
18:30				

第48号 日本美術教育研究論集 2015

【投稿および掲載要項】

研究論集編集委員会

投 稿 要 項

- 投稿条件： 第48回日本美術教育研究発表会の研究発表者は、『第48号研究論集2015』に投稿できます。投稿論文の研究論集への掲載は、次の(1)～(5)の条件を全て満たしたものに限り、
(1) 投稿原稿が、研究発表会における発表内容と基本的に同じ内容であること。
(2) 投稿原稿が、研究論集の要項に適合して、書式・分量等が守られていること。
(3) 掲載料を期日(2014年11月12日)までに納入していること。
(4) 作品の図版や写真・VIDEO映像等の著作物を利用する場合および写真等の肖像権は、投稿者が必ず事前に著作権者・出版社・所有者・本人もしくは保護者等の許諾を得ること。
引用文献には、脚注または本文中に発行所・出版年・該当頁等の出典を明記すること。
(5) 研究論集編集委員会において、投稿原稿の掲載が妥当と判断されること。
- 論文査読： A群(理論・実践研究論文)・B群(実践研究報告等)・C群(研究ノート)ともに複数の査読委員が査読を行い、編集委員会での審議を経て投稿原稿掲載の可否を決定します。掲載が決定した論文は、各主査がまとめて論評し、各論評を研究論集の〈論評の部〉に掲載します。
- 原稿書式： A群・B群・C群ともに、本文および図版(写真・表・図等)等、英文サマリー(A群のみ)を含め、下記の文字数を守って下さい。
1頁分は、A4横組2段 23字×44行×2段=2024字です。
第1頁のみ第1行目から第5行目(2段取り)までに、題目(副題)・所属・氏名を記載し、本文との間に2行(2段取り)のスペースを空け、本文は、8行目から書き始めます。
共通の項立て・見出しを用い、以下の番号と見出し語のみとします。
大項目 1. 2. 3. [全角数字] …、中項目 (1) (2) (3) …、小項目 ①②③…。
- 掲載要項： A群・B群・C群ともに原則として8頁(C群のみ6頁も可)とし、掲載料は一般(給与を得ている内地留学生等を含む)は15,000円、院生・学生8,000円です。
2頁増ごとに6,000円を加算し、10頁では一般21,000円、院生・学生14,000円です。
増頁の上限は12頁で、一般27,000円、院生・学生20,000円です。
原稿は、①ワープロ等で印字し、②テキスト形式で保存したCD-R等を合わせて提出すること。CD-R等の未提出の場合は、一般・学生とも加工料込み30,000円です。
カラーページは1頁につき12,500円を加算します。
抜き刷り(一律50部)は、8頁モノクロで7,000円です。2頁増ごとに2,000円を加算します。(抜き刷りのカラーページは、1頁ごとに2,000円を加算します。)
掲載料は投函以前に納入し、送金の証明書(利用明細書のコピー等)を同封して下さい。
口座記号番号：00170-1- 86036 (右寄せで記入) 郵便振込です。
加入者名： 社団法人日本美術教育連合
ご依頼人： (〒) おところ・おなまえ・電話番号・所属
通信欄： 例 掲載料15,000円(一般、8頁)+増頁分6,000円(2頁増の場合)=21,000円(計10頁)
抜き刷りを希望の場合は、その旨明記し、必要な金額を加算してください。
※査読の結果、掲載に至らない場合は10,000円(院生・学生は5,000円)のみ返金となります。抜き刷りの料金については、全額返金します。

〈投稿原稿〉11/12(水)必着

- 投稿不切： 2014(平成26)年11月12日(水)必着。A群・B群・C群とも、
①正1部と副4部(コピー可)計5部、②原稿CD-R等、③送金証明書を提出して下さい。
投稿原稿は、完全原稿とし、締め切り期日以降の差し替え・変更は認めません。
ただし、研究論集編集委員会が修正を求めるときは、この限りではありません。
なお、発行日は2015(平成27)年3月31日を予定しています。
- 送付先： 〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1 筑波大学附属小学校内
公益社団法人日本美術教育連合 研究論集編集委員会 宛

連絡・問合せ

- 詳細連絡： 研究発表会当日に詳細を連絡します。口頭発表者は時程と場所を二次案内で確認して下さい。
□問合せ先： 研究論集編集委員長 小林貴史:042-637-8111(代) ktakashi@zokei.ac.jp(東京造形大学)

造形・美術教育力養成講座 第2期1次 「子どもと造形表現」

連続講座を終了して

事業局長 水 島 尚 喜

8月27日、28日の両日にわたって開催された連合主催の連続講座「造形・美術教育力養成講座」—子どもと造形表現—（第一次、全8回）が終了しました。以下に終了後に実施した「参加者全員アンケート」の結果をもとに成果を報告申し上げます。

本年度は、四谷アートプラザ内のCCAAを会場として連続講座が開催されました。会場は、旧の小学校校舎を再利用した趣きのある建物です。参加された方々の会場に対する評価は上々で、会場アクセスの点からも好評でした。

本年度の参加者の延べ人数は約106名で、昨年8月26日から28日の三日間開催された第一次の参加者数よりも若干少なくなりましたが、大変盛況でした。

今後の開催時期については妥当との意見が大半でしたが、「地域によっては学校が始まっている場合もあるので、8月の最終週ではなく、前週または数日前の期間が妥当」との意見もありました。大学等で開催されている免許更新講習等の他のイベント時期なども見据えながら、次年度以降も開催時期を検討したいと思います。また、夏休み以外の期間や開催方法を検討してほしいとの意見も少数ありました。

参加者の半数は、小学校教員及び美術館学芸員ボランティアが多く、それ以外の方では中学校教員、塾経営者、学生の方たちでした。

講義内容については満足度が高く、参加された方の学修への意欲と相俟って、毎回どの会場も熱気に溢れていました。今回は特に、ワークショップ形式の講義内容が充実していました。具体性を伴った実践活動を対象とした内容が望まれていることを実感しました。

尚、8回の講座の満了者は、3名の方になりました。今後の講座内容への希望としては、以下のような提言がありました。以下に、キーワードでお示いたします。

「造形遊び」「伝統工芸を小学校に」「子どもと美術」「レッジョ・エミリア」

「発達論的観点からの鑑賞教育」「アートワークショップ」

今後は、開催関係の告知が昨年以前より、やや遅くなったことや、案内掲示に不調な面がありました。次回以降の課題としたいと思います。



茂木先生のレゴを使用したワークショップ



宮坂理事長による「受講認定証」の授与

公益社団法人日本美術教育連合 第4期 第1回理事会議事録 (内閣府提出仕様)

1. 招集通知 平成26年6月11日(水)
2. 開催日時 平成26年6月29日(日)午後1時30分～4時30分
3. 開催場所 東京家政大学板橋キャンパス
4. 出席した理事の氏名 大坪圭輔 水島尚喜 宮坂元裕 山口喜雄
公休 郡司明子
5. 出席した監事の氏名 北澤俊之
6. 議事の経過の要領及び議案別議決の結果

定款の規定に従い互選により理事宮坂元裕が議長に就任した。

その後、直ちに議案の審議に入った。

第1号議案 大坪圭輔理事より国際局の本年度の活動計画について次のような提案があった。

平成26年7月7日から11日にかけて、オーストラリアのメルボルンで開催のInSEA世界大会について。今回InSEA評議員に本連合運営委員 茂木一司氏が選ばれる予定であること、並びに本連合運営委員 福本謹一氏がエル・パシオニー賞を受賞する予定であることの2件の報告があった。

公益社団法人日本美術教育連合の代表として茂木一司氏を推薦する件について慎重審議した結果、第1号議案は全員一致をもって可決決定された。

第2号議案 山口喜雄理事より研究局の本年度の活動計画について次のような提案があった。

結城孝雄運営委員の協力により、第48回日本教育研究発表会の会場と日程が東京家政大学板橋キャンパスにおいて平成26年10月19日(日)に行われることが決定した。研究発表会の運営について慎重審議した結果、第2号議案は全員一致をもって可決決定された。

第3号議案 水島尚喜理事より事業局の本年度の活動計画について次のような提案があった。

平成26年8月26日27日両日、四谷アートプラザを会場として、幼小中学校教員、美術館関係者、日本美術教育連合会員、大学院生、大学生、画塾等経営者を対象とした、『造形・美術教育力養成講座、第2期第1次 子どもと造形表現』として2日間で8講座開催したいむねの提案があった。

内容と運営について慎重審議した結果、第3号議案は全員一致をもって可決決定された。

以上をもって議案のすべてを終了したので、議長は午後4時30分閉会した。

公益社団法人日本美術教育連合 第4期 第2回理事会議事録 (内閣府提出仕様)

1. 招集通知 平成26年8月11日(月)
2. 開催日時 平成26年8月31日(日)午後1時30分～4時30分
3. 開催場所 東京家政大学板橋キャンパス
4. 出席した理事の氏名 大坪圭輔 水島尚喜 宮坂元裕 山口喜雄
公休 郡司明子
5. 出席した監事の氏名 北澤俊之
6. 議事の経過の要領及び議案別議決の結果

定款の規定に従い互選により理事宮坂元裕が議長に就任した。

第1回理事会議事録の確認を行った。

その後、直ちに議案の審議に入った。

第1号議案 水島尚喜理事より事業局の本年度の活動について次のような報告と提案があった。

平成26年8月26日27日両日、四谷アートプラザを会場として、幼小中学校教員、美術館関係者、日本美術教育連合会員、大学院生、大学生、画塾等経営者を対象とした、『造形・美術教育力養成講座、第2期第1次(1年目)子どもと造形表現』が開催された。受講者数は延べ人数で106名であった。8講座をすべて受講し「受講認定証」を授けた者は3名であった。次に来年度は第2次としたいという提案があった。内容と運営について慎重審議の結果、第1号議案は全員一致をもって可決決定された。

第2号議案 大坪圭輔理事よりオーストラリアで開催のInSEAメルボルン国際美術教育学会について報告と提案があった。

本連合運営委員 茂木一司氏が評議員に選出されたこと、本連合運営委員 福本謹一氏がエル・パシオニー賞を受賞したことの報告があった。茂木一司氏及び本連合理事 山口喜雄氏よりメルボルン国際美術教育学会の様子が報告された。公益社団法人日本美術教育連合の国際会議でのPRの方法が討議され、慎重審議の結果、第2号議案は全員一致をもって可決決定された。

第3号議案 山口喜雄理事より、第48回日本美術教育研究発表会2014の運営について報告と提案があった。

本年の発表件数は37件であったとの報告の後、以下の提案があった。開催日平成26年10月19日(日)。会場は東京家政大学板橋キャンパス。運営委員役割分担。発表者の発表会場割り当て。司会者、論文主査、副査の分担。日本美術教育研究論集第48号編集の内容、編集日程などの提案があった。提案について慎重審議の結果、第3号議案は全員一致をもって可決決定された。

以上をもって議案のすべてを終了したので、議長は午後4時30分閉会した。

事務局だより

1. 第48回日本美術教育研究発表会 開催迫る！

10月19日（日）に行われる、第48回日本美術教育研究発表会（文部科学省後援予定）が東京都板橋区加賀の東京家政大学板橋キャンパスにて開催されます。詳しくは前掲のご案内をご参照ください。本年度は36件の研究発表が予定されています。広く日常的な実践のなかで児童生徒の姿をもとに紡がれた報告から、理論的・歴史的背景など科学的な精査から組み立てられた研究まで、多彩な発表が展開されることが期待されます。本年度より発表会会費として、概要集代500円を戴く事になりました。運営上の経費としてご理解下さい。

2. 平成26年度（2014年度）会費納入のお願い

会費未納の皆様は、下記まで 年会費6,000円 を郵便振替にて納入してください。

（公社）日本美術教育連合 郵便振替00170-1-86036

※期限が過ぎておりますので、お早めに納入してください。※

※インターネットバンキングでもお支払いいただけます※

- * 前回の連合ニュースNo.141に同封した振り込み用紙をご利用ください。（手数料をご負担ください。）
お名前を記載した振込用紙に、納入済みの方は○、未納の方は－が、不足の方は△が印字されています。ご確認ください。
- * 一昨年度より、年会費及び論文掲載費の改訂がされています。振込みの際は、今一度金額のご確認をよろしく願いいたします。年会費は6,000円です。すでに本年度以降の年会費をご入金いただいている方は、誠に申し訳ございませんが、差額をあらためてご入金いただきますようよろしくお願いいたします。（振込用紙に差額を記載いたします。）
- * 平成19年度より会費の納入をお願いしておりますが、会員の皆様からの納入状況は決してよくありません。今一度、会員の意識にたち、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

▲3年以上の会費未納の皆様へ

- * 平成25年度から、過去3年以上、会費未納の方につきましては、今回ご入金いただけない場合、「除名」という対応をとらざるを得ません。納入にご協力ください。
- * 末尾になりましたが、本年度より事務局長を拝命しました結城孝雄と申します。前任の西村先生のようなスムーズな運営を心がけたいと思います。皆様方にご迷惑、ご不便をお掛けすることがあるかもしれませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

■お問い合わせ：事務局長 結城 孝雄 東京家政大学

〒173-8602

東京都板橋区加賀1-18-1 9号館 初等教育第7研究室

Tel & Fax 03-3961-5594（研究室直通）

Mail takaoyuki@icloud.com